

# 学校図書館支援センター通信 NO 9 6月号

平成20年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）



## 支援スタッフがお手伝いをしています！

～ブックトークで広がる本の世界～

支援スタッフの酒井さんと栗原さんが学校図書館にお伺いし、図書館業務のお手伝いをしています。栗原さんは、主に、図書管理システムの保守やコンピュータ環境のトラブル解消などの支援をしています。酒井さんは、学校図書館員さんのご要望に応じて、図書の分類・配架、ネットワーク便の受入、図書の修理、読み聞かせやブックトークの実施、掲示物作成、図書館の引越し、悩み相談など、幅広く学校図書館運営をバックアップしています。4・5月の2ヶ月間で、新任図書館員さんの学校を中心に延べ13校の学校を訪問させていただきました。

先日は、国分小学校にお伺いしました。4年生の子どもたちを前に、まずは自己紹介。「パタパタ」という玩具を使ったり、手遊び歌を歌ったりしながらのユーモアあふれる自己紹介に、子どもたちもすぐに笑顔いっぱい！その後、もうすぐ運動会ということで、「スポーツ・運動」をテーマにしたブックトークを実施しました。（学校図書館員の井垣さんも「おすすめ本コーナー」で、「スポーツ・運動」をテーマに取り上げてくださっていました。）いろいろなジャンルの関連本が、クイズや映画のパンフレット、地図なども交えながら楽しく紹介されると、子どもたちは目を輝かせながら熱心に聞いていました。特に、手作りの「月桂樹の冠」には、子どもたちもびっくり！月桂樹にまつわるギリシア神話にも、興味が広がったようでした。最後に、運動会の「お守り」として、月桂樹の葉を1枚ずついただいて、とても喜んでいました。

子どもたちの心がぽかぽか温まるとともに、本の世界が、また一段と広がったことでしょう。

### ブックトークとは…

ブックトークとは、あるテーマにしたがって何冊かの本を順序立てて紹介する読書活動のひとつです。多様な本を紹介することで、本に対する興味を持たせ、読書意欲を喚起し、読書領域を拡大させます。普段から本を読んでいる子に対しても、体系的に読書する楽しさや、多面的・多角的に本を選ぶ能力を身に付けさせることができます。また、教科等の学習活動にも、導入や発展として計画的に取り入れていくことで、学習を広げ、深めることができます。



左：楽しいブックトーク



右：おすすめ本コーナー



### <データで見る市川市の学校図書館①>



「図書相互貸借システム（物流）による移動図書冊数の推移」

平成14年度 50,017冊 平成15年度 58,758冊 平成16年度 58,808冊

平成17年度 44,073冊 平成18年度 56,880冊 平成19年度 56,456冊

（※平成17年度は、管理システム入れ替えのため、減少。）

## 読書の町市川とともに歩いて・巻



私は16年間教師をし、学校図書館員になって20年になるが、あっという間の20年間であった。なぜ、こんなに長く続けてきたのか？

それは、毎回行っている本の読み聞かせやブックトークをしている時の“子どもたちの目の輝き”や反応がとても素敵だからだ。そして、先生方や保護者の皆さんとの本を通して育まれる暖かい交流にあると思う。本校の“あったかはあと”を本がかなえてくれている。ある先生が「今日の本、今学習していることにぴったり。役に立ってよかった。」ある保護者が「先生の読んでくださる本がいつも家で話題になったり、子どもが内容を話してくれたりするんです。」そんな言葉を聞くと、ますます力がわいてくる。しかし、どんな本をいつ読んであげたらよいか？ただおもしろいだけでは長く続かない。いつも迷ったり、悩んだりしていた。

よき先輩たちと歩んできた道をたどっていきたい。（八幡小学校 学校図書館員 加藤秀子）

（※このコーナーは、全4回シリーズでお届けする予定です。）

## 図書館の窓から

～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～



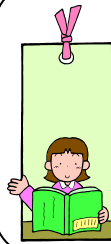
「今日は、何の本を読んでもくれるのかな。」「本が好き。」と学校図書館の中に子どもたちの明るい声が響いています。その一因が、図書委員会の子どもたちによる主体的な図書館行事の取り組みです。スタンプラリー・本のクイズなど楽しいイベントを企画実施しています。そのためか、実際に本を手にとる子どもたちも増えています。今後も、子どもたちが多くの本と出会って、楽しく読書や学習に取り組んでいけるよう支援していきたいと思えます。「本の迷子をなくし、楽しく本を読める場所にしよう。」図書委員会の目標達成へ向けて「ファイト！！」

（市川小学校 学校図書館員 溝口佳子）



賑わう「わんぱくタイム（休み時間）」

### 路子の部屋



6月7日の松居直さんの講演（市川子ども本の会）に、多くの司書や学校図書館員が参加されていましたね。82歳とは思えない若々しさに驚くとともに、改めて絵本は大人が心を傾けるものだと認識しました。『絵本の力』（岩波書店 河合隼雄・松居直・柳田邦男）に眼を開かれたのはもう5、6年前。絵本を使うと言葉の面白さに子どもたちが気づくことを実感したのは、中学校2年生の授業でした。（250冊以上の絵本を物流でお借りしました。）

### ホームページをリニューアルしました！

市川市教育センターのホームページ（【公共図書館と学校とを結ぶネットワーク事業】）をリニューアルしました。市川市の読書教育の概要が、テーマ別（例：「事業のねらい」「めざす学校図書館像」「物流システム」「図書館担当者の役割と連携」「事業の歩み」など）に、わかりやすく説明されています。もちろん、「学校図書館支援センター通信」も毎号アップしています。司書教諭、学校司書、学校図書館員だけでなく市内の多くの先生方にご覧いただくことで、市川市の読書教育について広く共通理解し、学校図書館活用をさらに推進していきたいと思えます。ぜひ、ご参照ください。（※「市川市教育センター」で検索できます。）

なお、教育センターホームページから【学習活動に役立つリンク集】にもアクセスできますので、合わせてご参照・ご活用ください。

